

「タイム」 下降開始(一一〇五) ↓

終了(一二二〇) ↓ 布入(一二二)

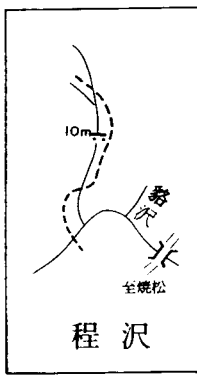
四〇)

茂庭沢上流部

L 空
一九八二年五月二三日

カツラ沢の廻行終了後、小沢を下
降して林道に出、この林道をそのま
ま異境まで歩いてから、茂庭沢の下
降に移る。林道は、少し広くなつた
所から先が廢道化していた。

沢に入ると、すぐに水が出てきた。
少し下ると二俣となり、その下に小
滝がある。二詰。右岸の木を使って

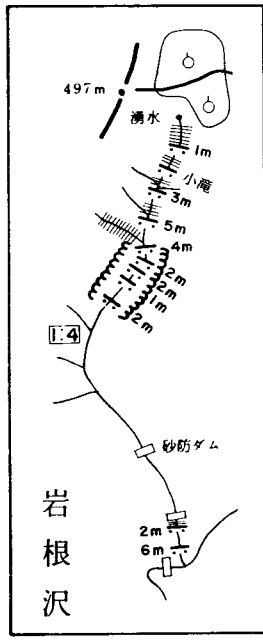


クライミングダウン。しばらくする
と、F10二・五詰。左岸を下降する。

右岸に林道の広くなっている所の
ガレ場が見えている。一詰に満たな
い滝が四つ連続して現れ、その先で
右岸より小沢が合流する。この小沢、

本流より水量が
多い。三倍もあ
る。

このすぐ下左
岸には、トンネ
ルの跡らしいも
のがあり、トロ



ツコの残骸もあって、レールも残っ
ていた。昔、このあたり一帯には大
小の金や銀の鉱山があったそうであ
る。有名なのは半田銀山であるが、
ここのもその一つであったのだろう。
小休止後、再び歩きだす。しばら
くするとF8一〇詰が出てくる。下
はゴルジュ状。左岸を捲いて降りる。
ここらあたりからが核心部で、F7
四詰は左岸をクライミングダウン。
次のF6四詰も、左岸をクライミン
グダウンする。F5三段滝、F4五
詰と越える。このあたり小沢が次々



と合流してくる。F3二段七詰。左岸よりをシュリングを使い、トラバースぎみに降りる。

沢がゴルジュ状になってきて、二五詰チヨクストーン滝。シャワーぎみに降りられそうだったが、アツプザイレンにて降りる。しかし、続くF2(蓮華滝)が三〇詰もあり、ここは降りられない。右岸のガレ場を、ザイルを使いながら、途中に何本か

立木等を使ってピレーをとり、二ピシチ半の登りにて、登山道に出る。時間も遅くなったので、今日はここで下降を中止して、登山道を下るこ

茂庭沢下流部

上
一九八二年八月八日

八時〇五分、遊行開始。今年は梅

雨明けが八月一日と例年になく遅れた上、スカツとした青空が広がらない。今日も空模様は何となく不安定。にわか雨くらいはきそうである。歩き始めてすぐ、五詰程の滝が右岸



茂庭沢の遊行

に見える。もっともこれは支沢にか

とにした。(記)

「タイム」 県境・下降点(一四〇〇)
↓蓮華滝(一六〇〇) ↓籠堂(一七二〇) ↓田畑部落(一八〇五)

かる滝ではなく、用水路からの過剰の水が流れ出て、滝になっているにすぎないようだ。

二〇分程進むと、一〇段の滝。右岸の一筋のブッシュ帯を登り、岩棚をトラバースして、最後は一〇段の高さの所をエイヤツと飛び降りる。

この上は、一〇個程の小滝が連なるゴルジュ帯だ。丸い釜とスタンスの少ないよくみがかれた岩盤が続い

ている。滝にもう少し高度があれば、通過は困難な所であるが、おしいかな、滝の高さは一〜三段程にすぎない。体をつつかり棒のようにして登ったり、斜面を駆けぬけたりして、結構楽しんで登った。

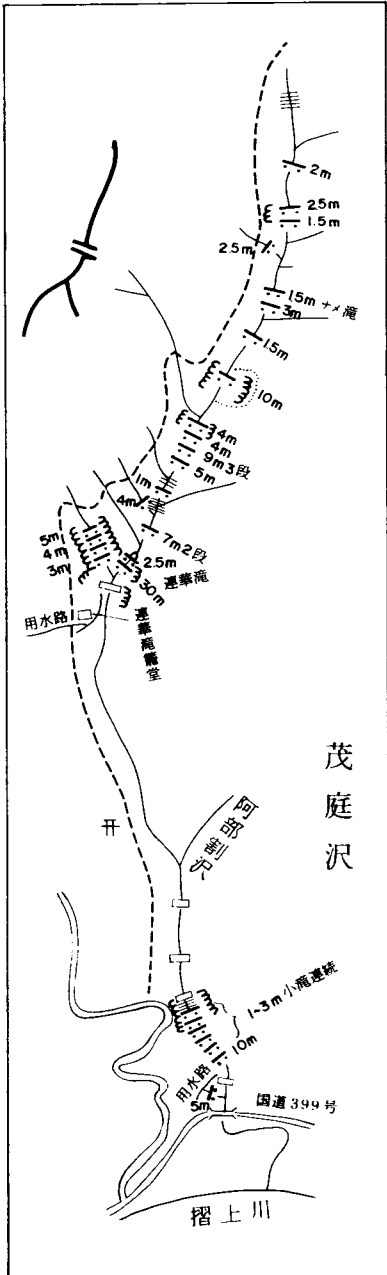
予想もしなかったゴルジュ帯の出現に気をよくしたが、この先は完全に平凡。滝も何もなく、蓮華滝までわきめもふらず、ただひたすら登る

ほかなかった。

蓮華滝は、三〇段程の落差をもつなかなか見事な滝である。そばに小さな祠が置かれ、霊場としての雰囲気も充分。近くには、立派な龍堂もある。

今日はここで遊行を打ち切って、下山にかかる。(記・一)

(二〇:五五)



茂庭沢